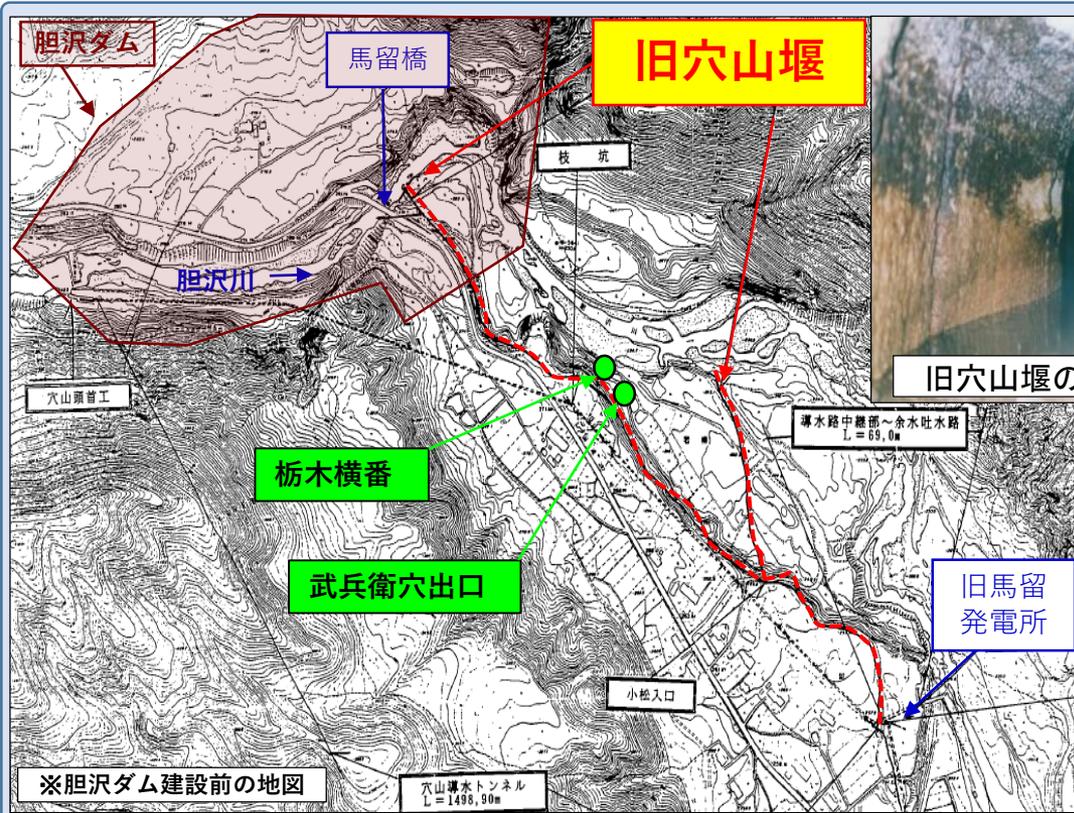


旧穴山堰 (きゅうあなやまぜき)

～当時の高度な土木技術を伝える貴重な土木構造物～



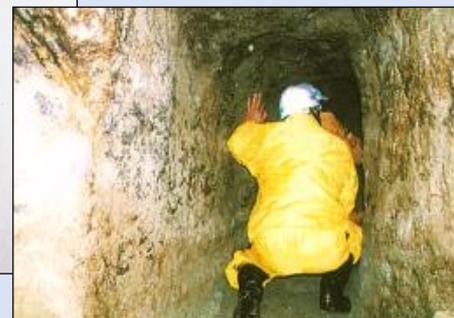
旧穴山堰の穴堰部分(トンネル)

旧穴山堰は、胆沢川馬留橋付近から取水し、前沢町白鳥(現:奥州市前沢白鳥)地域に水を引くため、450年以上前に作られた全長約1.8kmの最古の農業用水路と言われています。

旧穴山堰は、平堰部分(開水路)と穴堰部分(トンネル)で構成され、穴堰部分は約3kmの岩盤や砂礫をくりぬいた構造となっています。



栃木横番



武兵衛穴出口内部の調査状況

旧穴山堰は、いつ、誰が、どのようにして造ったのか多くの謎に包まれています。

馬留橋付近から旧馬留発電所の区間は、昭和3年頃まで使われていましたが、胆沢ダム建設に伴いダム堤体の下になってしまうことから、平成10年から胆沢ダム工事事務所や岩手県、水文化遺産旧穴山堰保全委員会などが協力して発掘調査を実施しました。

地中深くからは、「栃木横番(とちのきよこばん)」や「武兵衛穴(ぶへいあな)出口」などが発見されました。現在は奥州湖交流館内に展示している模型と、現地で「武兵衛穴出口」を見ることができます。